

金沢大学社会貢献特別推進事業の一環としての 金沢大学薬学部「くすりと健康プラザ」の社会貢献活動

伯水 英夫¹⁾・鈴木 永雄²⁾

The social activity of 「the plaza for health and medicine」 in the pharmaceutical faculty, as a part of special works for the social contributions of Kanazawa University

Hideo HAKUSUI ・ Nagao SUZUKI

「経緯」

金沢大学薬学部では金沢大学社会貢献特別推進事業「正しい医薬品の使い方ネットワーク」の一環として、平成15年10月に金沢大学薬学部「くすりと健康プラザ」を開設した。平成15年10月26日に、金沢大学 林勇二郎学長出席の基に開設記念講演会を開催した(図1)。金沢大学薬学部では「くすりと健康プラザ」を市民からのくすりと健康に関する質問への回答、薬剤師と薬学部の情報交換、情報発信の手段として活用している。また、市民を対象とした公開セミナー、NPOアカンサス薬局と連携した金沢大学公開講座：薬局見学・体験ツアー等にも活用した。「くすりと健康プラザ」は薬学部附属施設であり、大学院生を主体とする通常の薬学部各研究室のセミナー、通常授業の一環としての附属病院薬剤部病院実務実習、アカンサス薬局実習にも活用されている。筆者は金沢大学薬学部在籍中、金沢大学薬学部「くすりと健康プラザ」担当教員として設立当初から平成17年3月末まで、その業務推進にあたった。地域住民の健康維持向上に向けての1年半にわたる金沢大学薬学部「くすりと健康プラザ」の活動内容を報告する。



「活動の概要」

「くすりと健康プラザ」は、NPO 健康・環境・教育の会(NPO HEART)が金沢大学医学部附属病院前に開設しているアカンサス薬局の2階に設置された(図2)。NPOアカンサス薬局は外来処方箋の調剤業務を行う一方、薬局長は金沢大学薬学部鈴木永雄教授が兼務し、実質上、金沢大学薬学部の附属薬局として薬剤師研修機能を果たしている。約半年遅れて開設された「くすりと健康プラザ」には薬学



筆者：¹⁾ 愛知学院大学薬学部教授(平成17年3月まで金沢大学薬学部在籍した)

受理：平成17年8月31日

²⁾ 金沢大学薬学部教授

部教員1名が週2日駐在して、来訪する市民からのくすり与健康に関する相談と質問を受けた。質問は電話・FAXでも受付けた。

また、「くすり与健康プラザ」設置に合わせて金沢大学インターネットランに直結するホームページ <http://www.kanazawa-univ.jp/kenko/index.html> を立上げ、そのネット上の質問コーナーでも市民からのくすり与健康に関する相談や質問を受付けた(図3)。「くすり与健康プラザ」ホームページには金沢大学薬学部ホームページ <http://www.p.kanazawa-u.ac.jp> からもアクセスできる。「くすり与健康プラザ」に寄せられた質問の回答には薬学部教員の他、地域薬剤師を主体とした「正しい医薬品の使い方ネットワーク」会員が参画した。

一般性・公益性があると判断した質問と回答を「くすり与健康プラザ」ホームページにQ&Aとして掲載した。情報発信活動としては「くすり与健康プラザ」が位置する金沢市薬剤師会第8部会(14加盟薬局)やNPO HEARTと連携して市民・薬剤師を対象に各種疾患・薬物治療に関するセミナーを開催した。

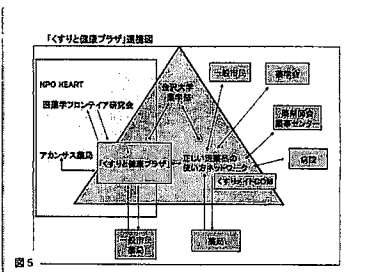
「くすり与健康プラザ」ホームページからはその他、「くすりについての役立つ情報」の項目から、最新の薬事情報、副作用情報等にアクセスできる。各種情報は「くすり与健康プラザ」担当者がタイムリーに、期限付きで入力している。また、セミナー等の開催情報も随時掲載している(図3)。



「市民から寄せられた質問と回答」

市民から寄せられた質問の一部を図4に示した(図4)。寄せられた質問には「くすり与健康プラザ」に連携して同時に設立された、金沢大学薬学部教員および地域薬剤師が加入している「正しい医薬品の使い方ネットワークネットワーク」:「くすりメイトCOM.」(図5)の会員が各々の専門性を活かして正確で的確な回答案を作成し、回答案が出揃った段階で、金沢大学薬学部鈴木永雄教授(回答編集委員長)が最終回答を編集して、各質問者に「くすり与健康プラザ」から回答をお返しすると共に、一般性・公益性があると判断した質問・回答の48件をQ&Aとして「くすり与健康プラザ」ホームページに掲載した(図6)(平成17年8月現在、Q&Aは再編集され40件掲載されている)。質問・相談内容ではサプリメントやセルフメデイケーションに関する質問が多く、南米原産の植物マカ(男女共用の滋養強壮薬)、田七人參(中国原産の高麗人參の一種)等、現在の日本の薬学教育では耳新しい薬物に関する使用法の質問が寄せられ戸惑った。医療用医薬品に関する質問では服用時刻、飲み合わせ(薬物相互作用)、使用期限、飲みやすくする方法など多種多様であった。薬効別ではうつ病治療薬等、精神科領域のくすりの質問が多かった。「くすり与健康プラザ」ホームページへのアクセス数は開設後1年間で約5千件であった(平成17年8月現在で8千4百件)。「くすり与健康プラザ」への訪問者記録、毎日

質問の伝送経路	質問内容	年齢	性別	カテゴリー
例1. インターネット	副作用がありますが、大粒の錠剤を飲むのが辛いので、代用錠剤と原薬の処方	49	女性	その他
例2. インターネット	田七人參の効能について	63	男性	処方薬/体内留置/副作用/その他
例3. インターネット	田七人參の効能について	40	女性	処方薬/体内留置/副作用/その他
例4. インターネット	田七人參の効能について	未記入	女性	処方薬/体内留置/副作用/その他
例5. 直接相談	2種類の目薬、どちらから投入したらいですか	30	女性	処方薬/体内留置/副作用/その他
例6. 直接相談	処方薬について質問に回答する方法	未記入	女性	その他
例7. 直接相談	飲みつづきの服用法	57	男性	処方薬/体内留置/副作用/その他
例8. 直接相談	小児への服用法の服用	未記入	女性	処方薬/体内留置/副作用/その他



種々の手段で寄せられる質問はその都度、生データとして「くすりと健康プラザ」記録に書類として残り保管した。一方、それぞれの質問と「正しい医薬品の使い方ネットワーク」での回答は「くすりメイトCOM」のファイルに保管された。「くすりと健康プラザ」に直接相談に訪れた市民から、服薬指導に対する感謝のメールが寄せられている。

「公開セミナー」の開催

地域住民、薬剤師を対象とした公開講座を、金沢市薬剤師会第8部会との協賛およびNPO HEART 健康・環境・教育の会との共催で計8回開催した(図7)。製薬企業の学術担当者あるいは金沢大学医学部・薬学部の教員を講師に招聘して、市民から寄せられた質問に関連するテーマを設定してセミナーを開催した。「くすりと健康プラザ」で開催されたセミナーの様態を図8に示した。「くすりと健康プラザ」は最大で20名しか収容できないが、金沢市近郊を含めて毎回約20名の

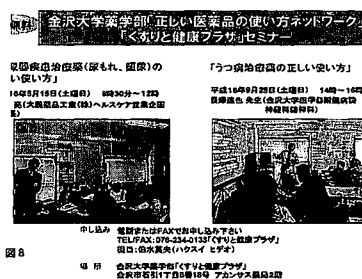
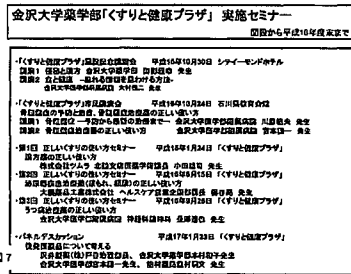
一般市民の参加があり、講演の後、気楽な雰囲気では活発な質疑応答がなされた。比較的高齢者の方の参加が多く、テーマに関連する疾患を抱える患者からは素朴で、なるほどとうなずける質問が多く、一部の質問と講師の回答は「くすりと健康プラザ」のQ&A資料にもさせて頂いた。各セミナーの開催毎に参加者にアンケートを実施して、次回セミナー開催の参考資料とした。セミナーの様態は北國新聞でも一部報道された。毎回のセミナーの開催と結果の報告は金沢大学社会貢献室にも報告し、金沢大学社会貢献室ホームページにもその様態が掲載された。

「金沢大学公開講座 薬局見学・体験ツアー」の開催

金沢大学公開講座の一環として、「くすりと健康プラザ」を講義と集合の場所にして周辺のアカンサス薬局、金沢大学附属病院薬剤部、中村漢方薬局の協力で、一般市民5名が応募した薬局・体験ツアーが開催された(図9)。一般市民が薬局、病院薬剤部の調剤現場で薬剤師の業務を見学・体験するという目新しい企画で、前後の講義を含めて4日間の日程で開催された。参加者は調剤現場での薬剤師の高い専門性に感動し、薬剤師の持つ医薬品の深い知識と技術に信頼を持ったようであった。参加者からはくすりに関する情報をもっと手軽に、身近に入手できるようにするのに、薬剤師の姿が具体的に見えるこうした薬局体験公開講座の継続的開催が強く希望された。

「出前講義の実施」

その他、社会貢献活動の一環として地域の社会福祉委員会と連携して、お年寄りの健康サークル活動にくすりに関する出前講義をアカンサス薬局の薬剤師さんと協同で3回実施した。いずれも「くすりととの付き合い方」をテーマにした簡単な講義の後、参加者それぞれのくすりに関する個別の相談に応じた。いずれも、「くすりと健康プラザ」近隣の公民館が会場で、定期的で開催さ



れている地域のお年寄り方々の血圧測定等の健康チェックサークル活動の後に、出前講義を実施した。「くすりと健康プラザ」で開催されるセミナーとはまた異なった雰囲気、講義の後は、個別にそれぞれの個々の相談に応じると言う、医師の診断スタイルの応対となった。当然のことながら自分の服用しているくすりに関する興味は深く、副作用への危惧、作用メカニズム、類薬との比較等、多彩であった。自分の治療法に用いられてくすりに対するセカンドオピニオンの見解を要求されることが多かった。質問に即座に的確に回答する事は大変難しく、くすりを扱う立場での薬学教育の重要性を、自分の知識の狭さから痛感した。

「くすりと健康プラザ」リーフレットの作成

平成17年度の金沢大学社会貢献事業の予算枠内で、「くすりと健康プラザ」を紹介するリーフレットを1000部作成した。「くすりと健康プラザ」を訪問する人々、各種セミナーの開催時に広く配布し、金沢大学薬学部「くすりと健康プラザ」の活動と存在をアピールした。

「薬学会での発表」

金沢大学薬学部「くすりと健康プラザ」の活動状況および「正しい医薬品の使い方ネットワーク」：「くすりメイトCOM」の活動状況を第125年会日本薬学会（平成17年3月29日-31日、東京）で発表した。^{1) 2)} 本報告は大筋、薬学会での発表内容に基づき作成した。

ポスター発表であったが、多くの方々に発表内容を見て頂いた。薬学部が社会貢献に参画する事を賞賛して頂く共に、こうした事業の企画立案とそれを推進した費用・支援に対する質問が多かった。

「まとめ」

1. 「くすりと健康プラザ」開設1年間で寄せられた質問のうち、ホームページにQ&Aとして掲載した項目は48件、ホームページへのアクセス数は約5000件であった。質問内容ではセルメデイケーションやサプリメントに関するものが多く、昨今の健康食品ブームを反映すると同時に、一般市民はその使用に半信半疑である実態が把握できた。医療用のくすりに関する質問では服用時刻、飲みやすくなる方法、使用期限、薬物相互作用（飲み合わせ）など多種多様であった。薬効別ではうつ病治療薬等精神科領域のくすりが多かった。
2. 多様な質問への対応や情報提供に、大学教員と薬局薬剤師が各々の専門性を活かして正確で的確な回答作成が求められた。薬学部では全教員のそれぞれの専門を活かした連携が重要であった。実際の臨床でのくすりの使い方等については現場の薬剤師さんの方がよりの確であった。
3. 市民・薬剤師を対象としたセミナーを6回、出前講義を3回開催し、くすりの正しい使い方の地域貢献を実施した。市民の皆さんのくすりと健康に関する旺盛な疑問・質問に驚くと同時に、薬剤師が市民の皆さんの質問に適切に対応することの必要性を実感した。折りしも、薬学部は6年制に移行してより充実した教育の基に社会のニーズにあった薬剤師を育成しようとしているが、正にその必要性を確認できた。
4. 「くすりと健康プラザ」は薬学部と一般市民・薬局薬剤師を結ぶワン・ストップ機能としての役割を果たした。薬学部からはくすりと健康に関する詳細情報を伝達する一方、一般市民からはくすりと健康に関する疑問点および薬学部・薬剤師に期待している事等を直接、話して

頂いた。理想とする薬剤師像、薬学教育のあり方の考察に参考となった。くすりの事は薬剤師に聴くとの社会通念の構築に寄与できた。「くすりと健康プラザ」の活動は平成15年に発足した金沢大学社会貢献推進事業の一環として実施された。

「謝辞」

全国の薬学部の中でも時代に先駆け、社会貢献事業「くすりと健康プラザ」を企画立案して、それを実現し、そこで仕事をする機会を与えて頂いた、前金沢大学薬学部長で、NPO HEART 健康・環境・教育の会理事長 辻彰教授に深く感謝します。また、常に適切な指導を賜った石川県薬剤師会理事古本義明先生に深く感謝します。ご協力戴いた、金沢大学薬学部の諸先生、金沢大学医学部附属病院薬剤部の諸先生、アカンサス薬局の薬剤師さん、NPO HEART の方々、金沢市薬剤師会第8部会加盟薬局の方々に感謝します。

「参考文献」

1. 金沢大学薬学部「くすりと健康プラザ」の社会貢献活動
○伯水英夫¹、鈴木永雄¹、大柳加津夫²、山田順子²、塩村和子²、稲野彰洋²、石橋弘行¹、辻彰¹（¹金沢大学院薬、²NPO 健康・環境・教育の会）
日本薬学会第125年会（2005年3月31日、東京）、社会薬学、31-1120で発表
2. 薬学連携の実践に向けて金沢大学薬学部「くすりと健康プラザ」とNPO運営ホームページ「くすりメイトCOM」の協調
○鈴木永雄¹、伯水英夫¹、大柳加津夫²、山田順子²、塩村和子²、稲野彰洋²、古本義明³、辻彰¹（¹金沢大学院薬、²NPO 健康・環境・教育の会、³石川県薬剤師会）
日本薬学会第125年会（2005年3月31日、東京）、社会薬学、31-1121で発表